

## 【道路建設課所管 再評価審議資料】

○ 再評価対象箇所一覧表 . . . p 1

### ○平成 2 9 年度 再評価実施箇所

道路改築事業（社会資本整備総合交付金） . . . p 2

1）（一）岐阜那加線 那加西浦町工区 . . . p 3 ～ 1 1

2）（一）本庄揖斐川線 福島～長良工区 . . . p 1 2 ～ 2 1

3）（国）257号 川上Ⅱ期バイパス工区 . . . p 2 2 ～ 3 2

4）（主）国府見座線 十三墓峠工区 . . . p 3 3 ～ 4 3

5）（市）跡津川線 跡津川工区 . . . p 4 4 ～ 5 6

平成29年度 再評価対象箇所一覧表 10月27日審議箇所

[県土整備部 道路建設課]

番号	事業名	路線・地区 ・河川名等	実施箇所 (市町村名)	採択 年度	完了 予定 年度	事 業 概 要			全体事業費 (百万円)	実施済み額 (百万円)	進捗率 (%)	経過年数 (H28.3現在)	政策との 位置付け	関連事業の 進捗状況	社会経済情勢 等の変化及び 地元の意向	環境との調 和への配慮 事項	事業費縮減	費用対効 果分析	対応方針 (案)	特記事項
						全体事業量 (km)	実施済事業量 (km)	事 業 実施率												
									用地補償費	用地補償費	用地補償費									
									工事費等	工事費等	工事費等									
1	道路改築事業	(一)岐阜那加線	那加西浦町 工区	24	34	0.63	0.00	0.0%	730 428 302	316 256 60	43.0% 60.0% 20.0%	5	渋滞緩和による 円滑な交通の 確保 高速道路への アクセス向上 狭隘・線形不良 箇所の解消に よる円滑な交 通の確保	—	—	—	盛土材の流 用によるコス ト縮減	6.6	継続	
2	道路改築事業	(一)本庄揖斐 川線	福島～長良 工区	24	40	1.63	0.00	0.0%	2,000 799 1,201	506 305 201	25.0% 38.0% 17.0%	5	渋滞緩和による 円滑な交通の 確保 高速道路への アクセス向上	—	東海環状自動 車道(西回り区 間)の整備	—	盛土材の流 用によるコス ト縮減	1.9	継続	
3	道路改築事業	(国)257号	川上Ⅱ期バイ パス	20	37	1.80	0.00	0.0%	4,800 18 4,782	1,179 18 1,161	25.0% 100.0% 24.0%	10	災害時に有効 に機能するネッ トワークの確保	—	—	希少猛禽類 (クマタカ)へ の配慮	トンネルずり の他工区流 用による処理 費の縮減	1.0 (1.1)	継続	※前回再 評価H24
4	道路改築事業	(主)国府見座 線	十三墓峠工 区	20	41	1.74	0.00	0.0%	2,800 10 2,790	1,462 8 1,454	52.0% 80.0% 52.0%	10	災害時に有効 に機能するネッ トワークの確保	—	高山国府バイ パス、中部縦 貫自動車道の 整備	—	盛土材の流 用によるコス ト縮減	1.1 (1.1)	継続	※前回再 評価H24
5	道路改築事業	(市)跡津川線	跡津川工区	16	39	0.88	0.00	0.0%	1,779 141 1,638	443 135 308	25.0% 96.0% 19.0%	15	狭隘・線形不良 箇所の解消に よる円滑な交 通の確保	—	新たな研究施 設の建設	—	トンネルずり の他工区流 用による処理 費の縮減	—	継続	

費用対効果分析:( )は前回再評価時の投資効果率

平成29年度 再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について

課名 道路建設課

○事業制度について	事業名		道路改築事業（社会資本整備総合交付金）
	事業目的		地方公共団体等が行う社会資本の整備その他の取組を支援することにより、交通の安全の確保とその円滑化、経済基盤の強化、生活環境の保全、都市環境の改善及び国土の保全と開発並びに住生活の安定の確保及び向上を図ること。
	採択基準		地域住民の日常生活の安全性若しくは利便性の向上を図るために必要であり、又は快適な生活環境の確保若しくは地域の活力の創造に資すると認められるもの。
	概要（メニュー）		現道の拡幅や線形改良またはバイパス等の建設
○費用対効果の分析について *費用便益B/C*	効果の項目	うち貨幣換算する項目 ≪B≫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・走行時間短縮便益</li> <li>・走行経費減少便益</li> <li>・交通事故減少便益</li> </ul>
		その他項目	
	費用 ≪C≫ の算定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用の積み上げ基準＝道路整備に要する事業費＋道路維持管理に要する事業費</li> <li>現在価値算出のための社会的割引率：4%</li> <li>基準年次：評価時点</li> <li>検討年数：50年間</li> </ul>	
	費用便益比の基準	費用便益比（B／C）1.0以上	

# 平成29年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路建設課〕

番 号	1	事 業 名	道路改良事業 (路線・河川名等) 一般県道 岐阜那加線 那加西浦町工区	
事業実施箇所	かかみがはらしなかにしうらちよう 各務原市那加西浦町地内 かかみがはらしな かみどりまち ～各務原市那加緑町地内		事業主体	岐阜県
採択年度	平成24年度		完了予定年度	平成34年度
再評価の実施基準		事業着手年度から5年間が経過した時点で、継続中の事業（経過措置）		
事業目的				
一般県道岐阜那加線は、岐阜市城東通を起点とし各務原市那加緑町に至る延長約5.3kmの路線である。当該事業はこのうち終点である国道21号接続部（那加緑町4交差点）までの630m区間を整備するものであり、渋滞緩和、岐阜各務原ICなどへのアクセス強化、交通安全の確保を目的としている。				
事業概要				
事業延長：630m		車道幅員：3.25m×2車線 歩道幅員：3.00m（両側）		
概 要 図				
<div><div></div><div><div>写真①</div></div><div><div>写真②</div></div><div><div>位置図</div></div></div>				



# 事業再評価 道路改築事業

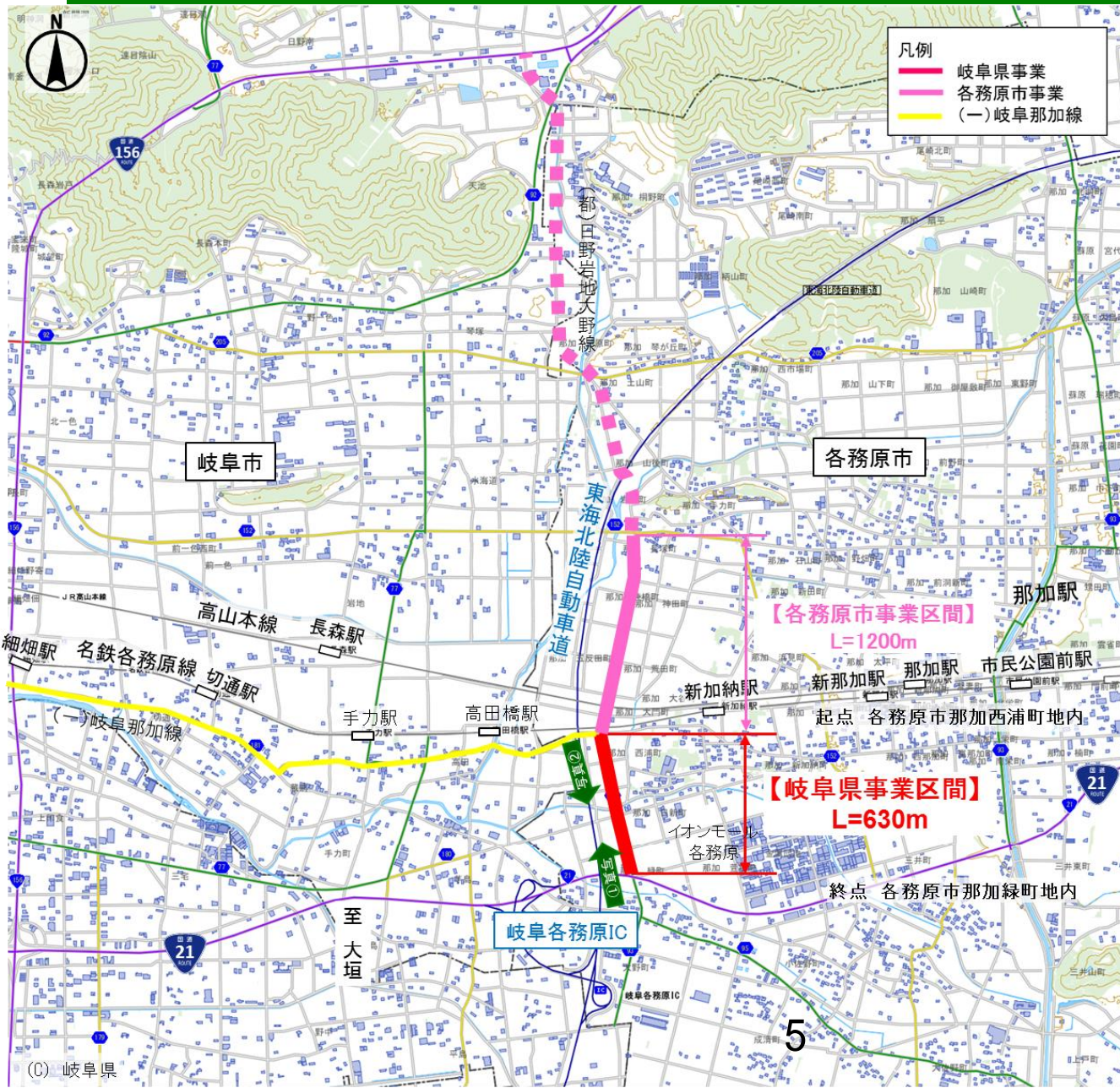
## 一般県道 岐阜那加線

なかにしうらちょう  
那加西浦町工区

岐阜県 県土整備部 道路建設課  
平成29年10月



# 位置図



写真①



写真②



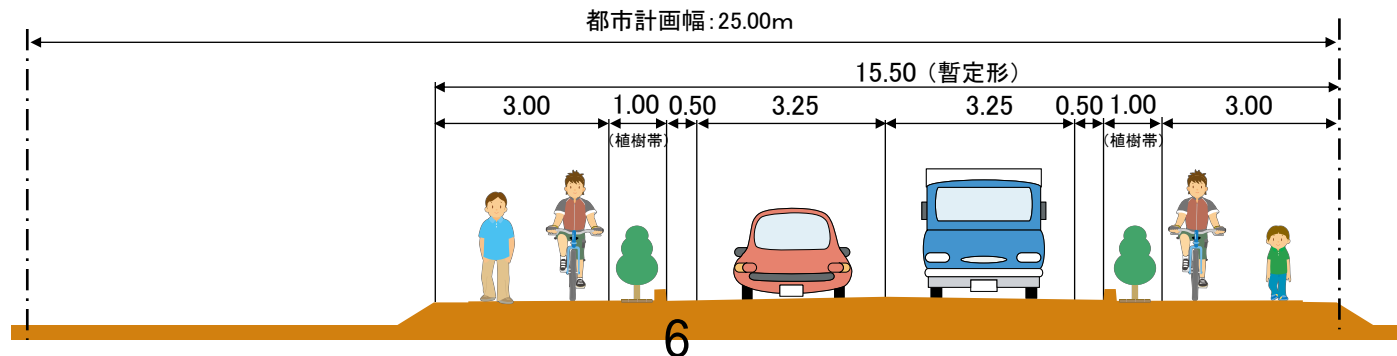
位置図



# 事業概要

- ◆起 終 点：かかみがはらし なかにしうちょう 各務原市那加西浦町～かかみがはらし なかみどりまち 各務原市那加緑町
- ◆全体延長：630m
- ◆総事業費：約7億円
- ◆事業着手：平成25年度
- ◆完成予定：平成34年度
- ◆幅 員：車道 3.25m × 2車線  
：歩道 3.00m（両側）

## ◆標準横断面図





# 事業の目的

## ■【渋滞緩和】

国道21号、岐阜各務原IC、大型商業施設、工業団地などへ向かう交通の集中により発生する慢性的な渋滞の緩和を図る。

## ■【アクセス強化】

岐阜各務原IC、医療機関（岐阜県総合医療センター）へのアクセス強化を図る。

## ■【交通安全の確保】

現道は歩道が無く、歩道整備により、自転車、歩行者の安全確保を図る。



写真①



写真②



# 費用対効果分析

## 事業の効果

- 走行時間短縮便益 ..... 効果全体の約 68%
- 走行経費減少便益 ..... 効果全体の約 27%
- 交通事故減少便益 ..... 効果全体の約 5%

## 投資的效果率

$$\frac{\text{効果額}}{\text{事業費}} = 6.6 \text{ (全体)}$$

※費用便益分析マニュアル(H20.11 国土交通省)に基づき算出





# コスト削減の取り組み

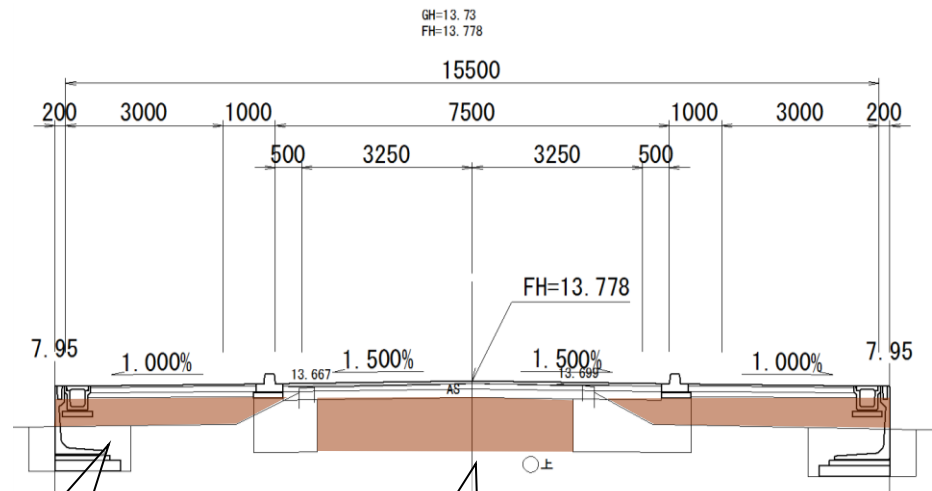
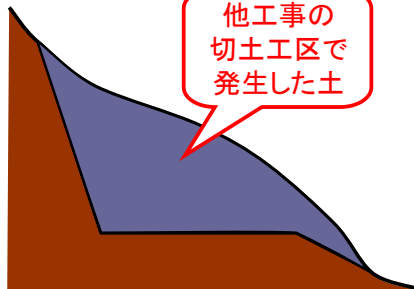
## ◆盛土材等の有効利用

### ■盛土、路床土の有効利用

約2千万円のコスト削減

土の有効利用

他工事の  
切土工区で  
発生した土



盛土部に有効利用

既設道路の路床  
を有効利用

## 対応方針(案)

○（一）岐阜那加線 那加西浦町工区の整備は、アクセスの強化や渋滞緩和、交通安全の確保に大きく寄与する。

○地元住民および自治体から、早期完成の強い要望がある。



**供用に向け、事業を継続**

# 平成29年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路建設課〕

番 号	2	事 業 名 (路線・河川名等)	道路改良事業 一般県道 本庄揖斐川線 福島～長良工区
事業実施箇所	揖斐郡揖斐川町福島 ～揖斐郡揖斐川町長良		事業主体 岐阜県
採択年度	平成24年度	完了予定年度	平成40年度
再評価の実施基準	事業着手年度から5年間が経過した時点で継続中の事業（経過措置）		
事業目的	<p>(一) 本庄揖斐川線は、揖斐郡大野町本庄を起点とし、揖斐郡揖斐川町長良に至る路線である。</p> <p>本事業は、(国)303号の円滑で安全な交通環境の確保、東海環状自動車道への更なるアクセス向上を目的とし、バイパス整備するものである。</p>		
事業概要	<p>事業延長：1,630m 車道幅員：3.25m×2車線</p> <p>歩道幅員：3.50m（両側）</p>		
概要図			
写真①			
写真②			
写真③			

# 事業再評価 道路改築事業

## 一般県道 本庄揖斐川線

ふくしま ながら  
(福島～長良工区)

県土整備部 道路建設課

平成29年10月

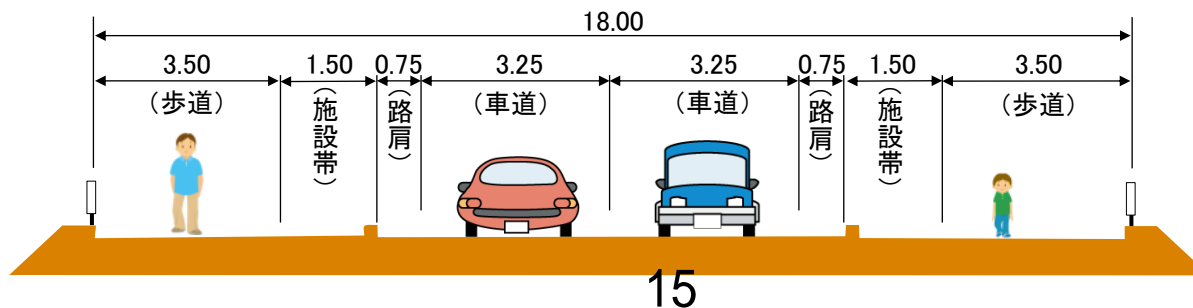




# 事業概要

- ◆起 終 点：揖斐郡揖斐川町福島～揖斐郡揖斐川町長良
- ◆全体延長：1, 630m
- ◆総事業費：約2, 000百万円
- ◆事業着手：平成25年度
- ◆完成予定：平成40年度
- ◆幅 員：車道 3.25m × 2車線  
：歩道 3.50m（両側）

標準横断図







# 費用対効果分析

## 事業の効果

- 走行時間短縮便益 …… 効果全体の約 92%
- 走行経費減少便益 …… 効果全体の約 7%
- 交通事故減少便益 …… 効果全体の約 1%

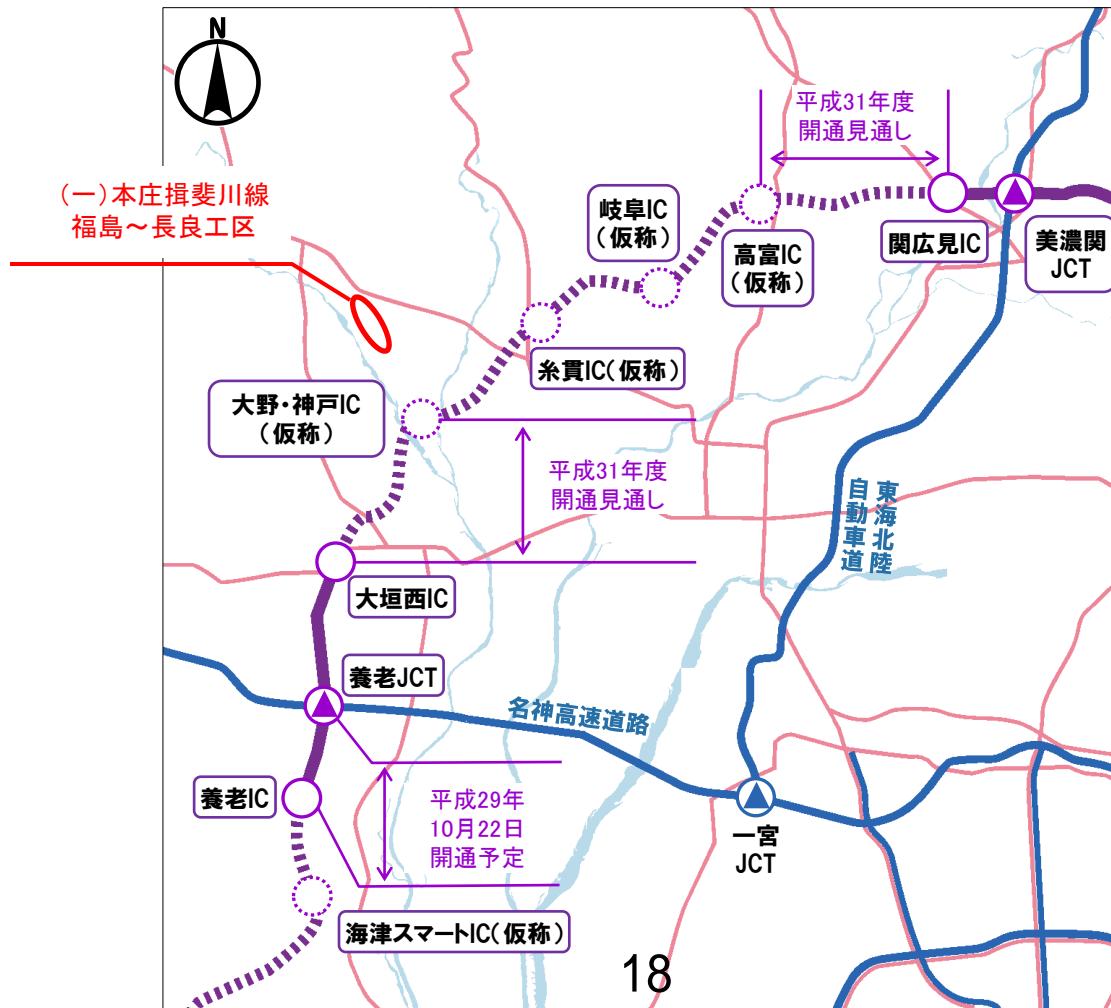
## 投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.9$$

※費用便益分析マニュアル（国土交通省H20.11）に基づき算出

# 事業を巡る社会経済情勢等の変化

- 東海環状自動車道（西回り区間）が、平成29年度に養老JCT～養老IC間に開通。平成31年度に関広見IC～（仮）高富IC間、（仮）大野・神戸IC～大垣西IC間が開通見込み



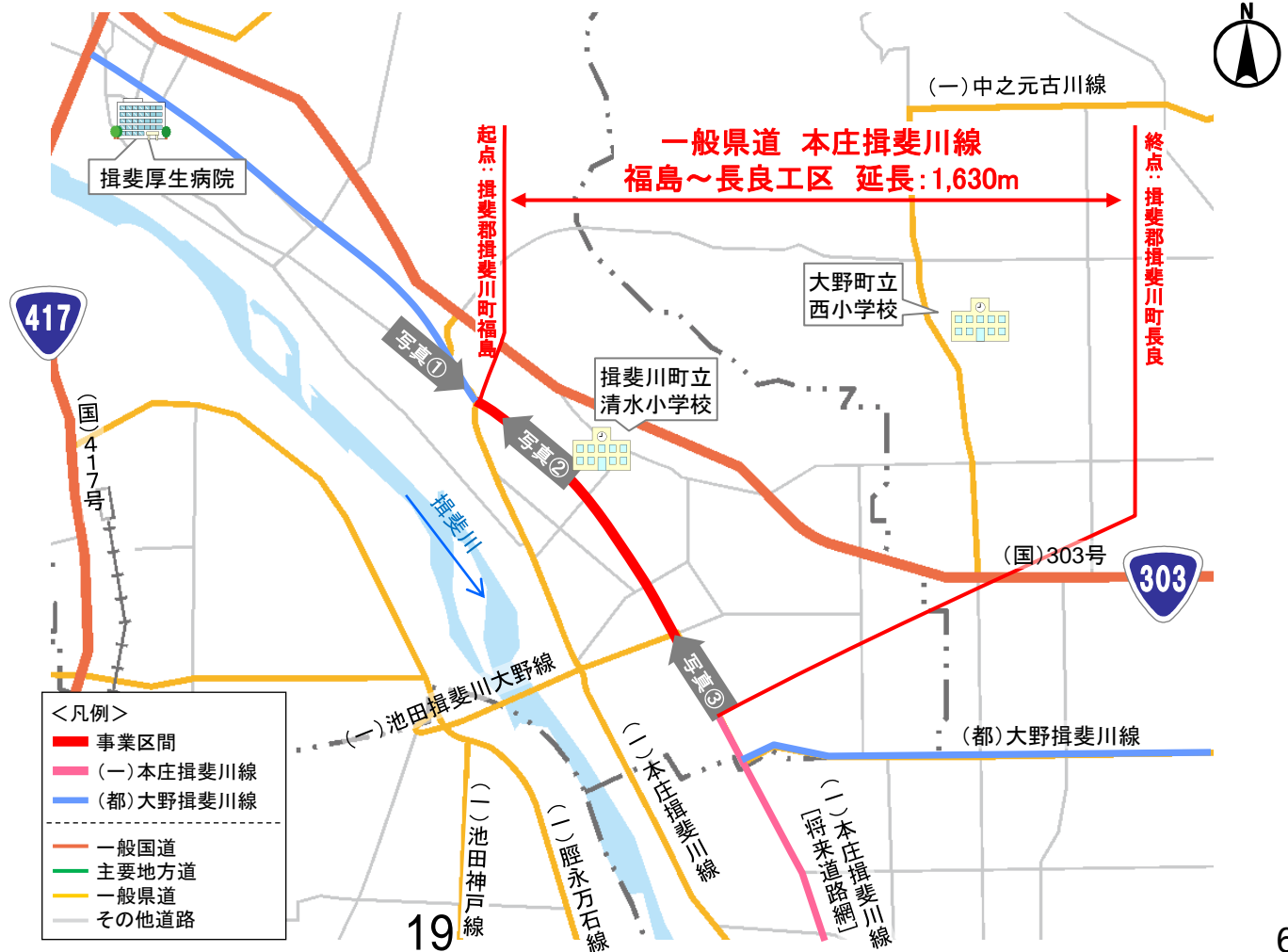
# 事業の進捗状況

全体進捗率 25% ※

用地補償取得率 38% ※

工事進捗率 17% ※

※ 平成28年度末事業費ベース

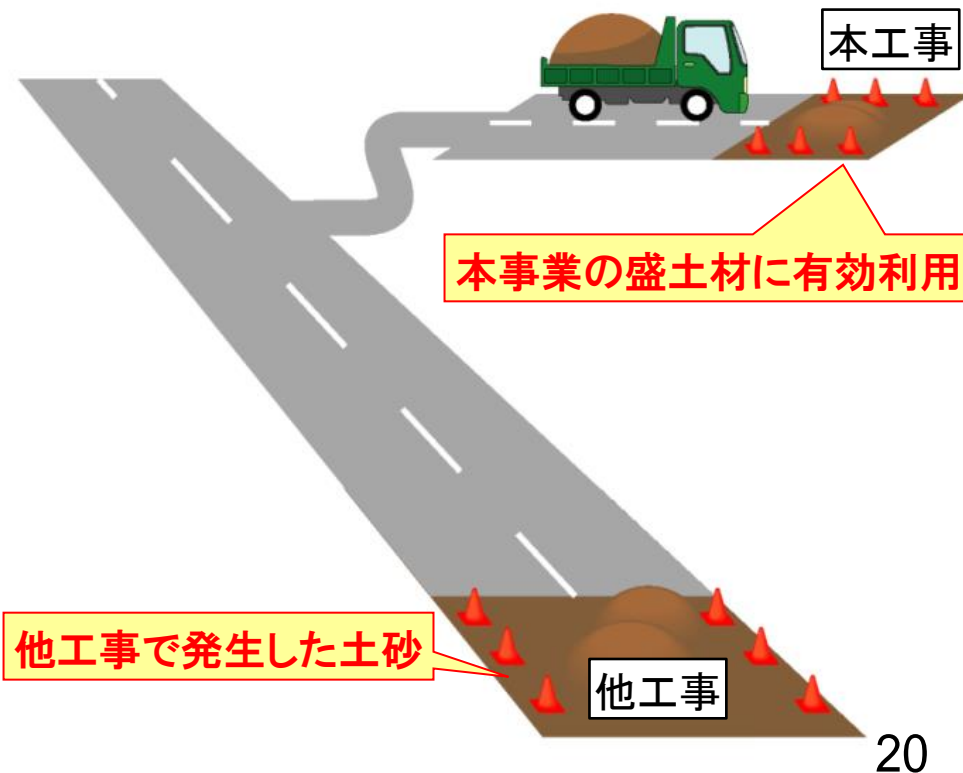


# コスト削減の取り組み

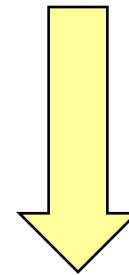
## ◆盛土材の有効利用

■他工事で発生した土砂、 $V = \text{約 } 10,000 \text{ m}^3$ を盛土部に有効利用

約5千万円のコスト削減



盛土材(約 $1\text{万 m}^3$ )について  
他工事からの発生土を活用



盛土材購入費用  
約5,000万円のコスト削減

## 対 応 方 針（案）

○一般県道 本庄揖斐川線 福島～長良工区の完成は、円滑で安全な交通環境、東海環状自動車道への更なるアクセス向上に寄与する。

○地元住民および関係自治体から事業の継続、早期完成の要望がある。



＝供用に向け、事業を継続＝



# 平成29年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路建設課〕

番 号	3	事 業 名 (路線・河川名等)	道路改築事業 一般国道257号 川上Ⅱ期バイパス
事業実施箇所	げろしませかおれ 下呂市馬瀬川上 ～げろしませかおれ 下呂市馬瀬川上		事業主体 岐阜県
採択年度	平成20年度	完了予定年度	平成37年度
再評価の実施基準	再評価を実施した後5年間が経過した時点で継続中の事業（経過措置）		
事業目的	<p>一般国道257号は静岡県浜松市を起点とし、県内は恵那市、下呂市等を経由し岐阜県高山市へ至る延長約208kmの幹線道路である。当該事業はこのうち下呂市馬瀬川上の約1,800m区間についてバイパスを整備するものであり、広域アクセス向上、地域間の観光交流や産業振興の推進、災害時に有効に機能するネットワークの確保、隘路・線形不良箇所の解消による円滑な交通の確保を目的としている。</p>		
事業概要	<p>事業延長：1,800m 車道幅員：3.00m×2車線</p> <p>主要構造物：川上第2トンネルL=1,215m (※構造物名は仮称)</p>		
概要図	<div> <div>位置図</div> <div>写真①(起点部付近の状況)</div> <div>写真②(現道の状況)</div> <div>写真③(現況トンネルの状況)</div> <div>写真④(現況トンネルの状況)</div> </div> <div> </div>		

# 事業再評価 道路改築事業

## 一般国道257号 かおれ (川上Ⅱ期バイパス)

県土整備部道路建設課

平成29年10月

23







# 位置図②

写真③(現況トンネルの状況)



写真④(現況トンネルの状況)



写真①(起点部付近の状況)



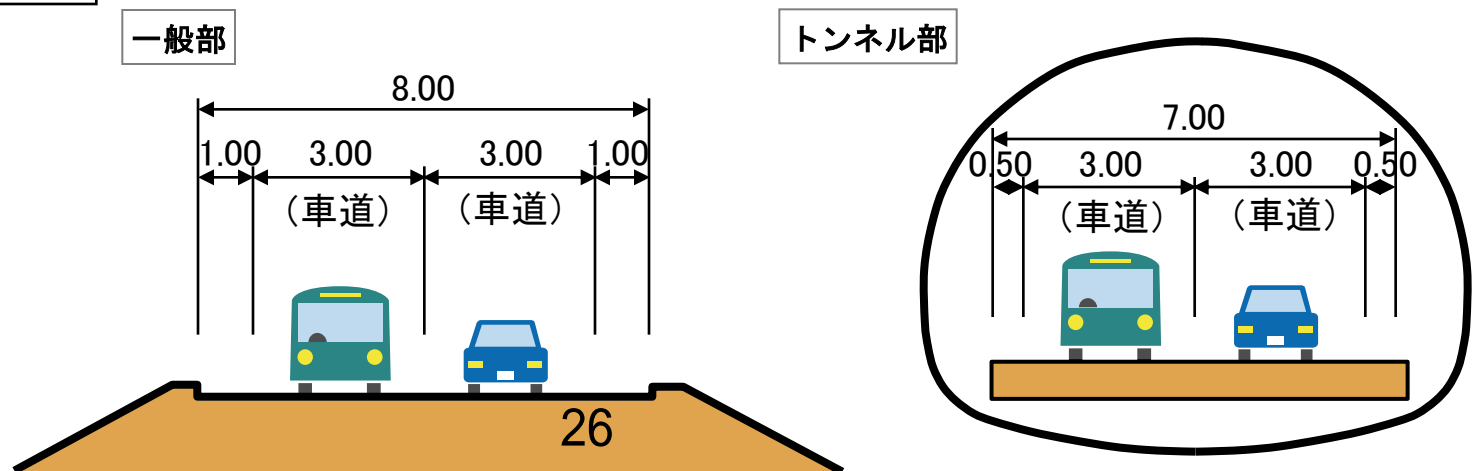
写真②(現道の状況)



# 事業概要

- ◆ 起 終 点 : <sup>げ ろ し ま ぜ か お れ</sup>下呂市馬瀬川上
- ◆ 全体延長 : 1, 8 0 0 m (トンネル延長  $L = 1, 2 1 5$  m)
- ◆ 総事業費 : 約 4 8 億円
- ◆ 事業着手 : 平成 2 0 年度
- ◆ 完成予定 : 平成 3 7 年度
- ◆ 幅 員 : 車道 3. 0 0 m  $\times$  2 車線

## 標準横断図

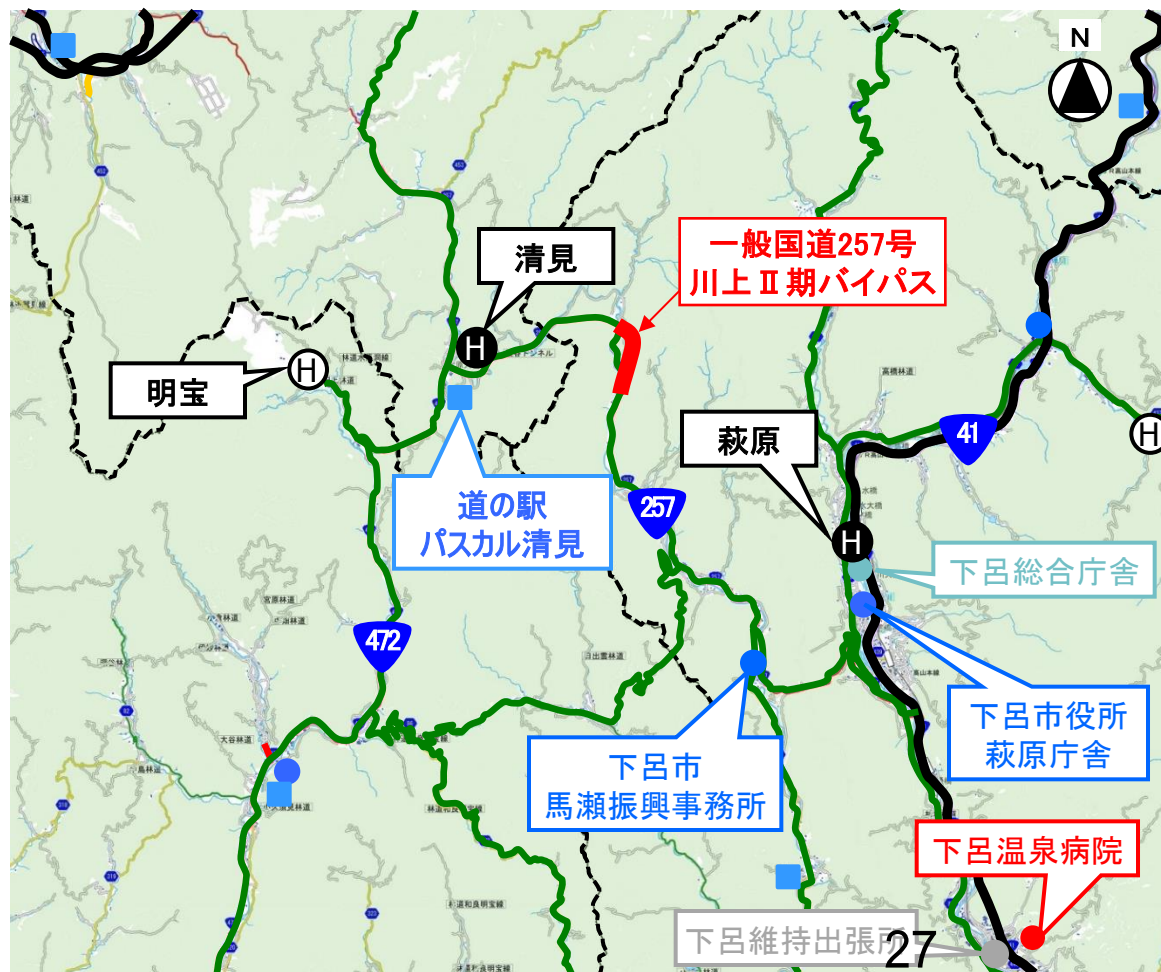




# 事業の目的

## 災害時に有効に機能するネットワークの確保

■国道257号は**緊急輸送道路**に指定。



### 【緊急輸送道路】

- ・地震直後から発生する緊急輸送を円滑かつ確実に実施するための道路であり、道路の耐震性が確保されているとともに、地震時にネットワークとして機能する。
- ・防災拠点等を効率的に連絡する。

### ＜主要な防災拠点＞

(行政機関、ヘリポート、道の駅等)

- 第1次緊急輸送道路
- 第2次緊急輸送道路
- 第3次緊急輸送道路
- 市町村庁舎（第2次防災拠点）
- 現地機関
- 国土交通省関係（道路管理）
- 防災拠点（道の駅）
- 災害医療拠点
- Ⓜ ヘリポート（大型）
- Ⓜ ヘリポート（防災ヘリ）

# 費用対効果分析

## 事業の効果

- 走行時間短縮便益 …… 効果全体の約 89%
- 走行経費減少便益 …… 効果全体の約 10%
- 交通事故減少便益 …… 効果全体の約 1%

## 投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.0 \text{ (全体)}$$

前回再評価時  
(H24年度)  
1.1 (全体)

※費用便益分析マニュアル（国土交通省H20.11）に基づき算出

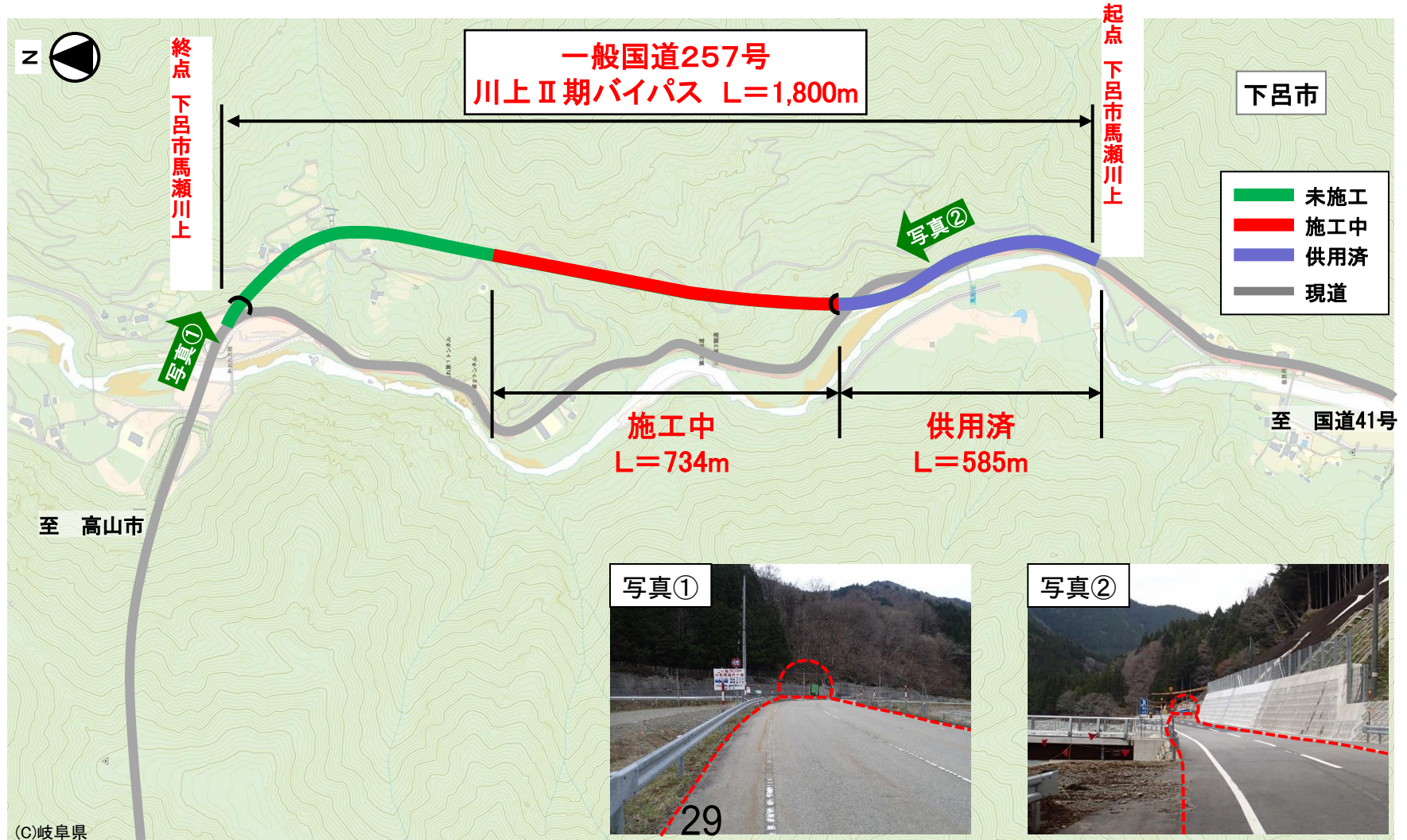
# 進捗状況

全体進捗率 25%※

用地補償進捗率 100%※

工事進捗率 21%※

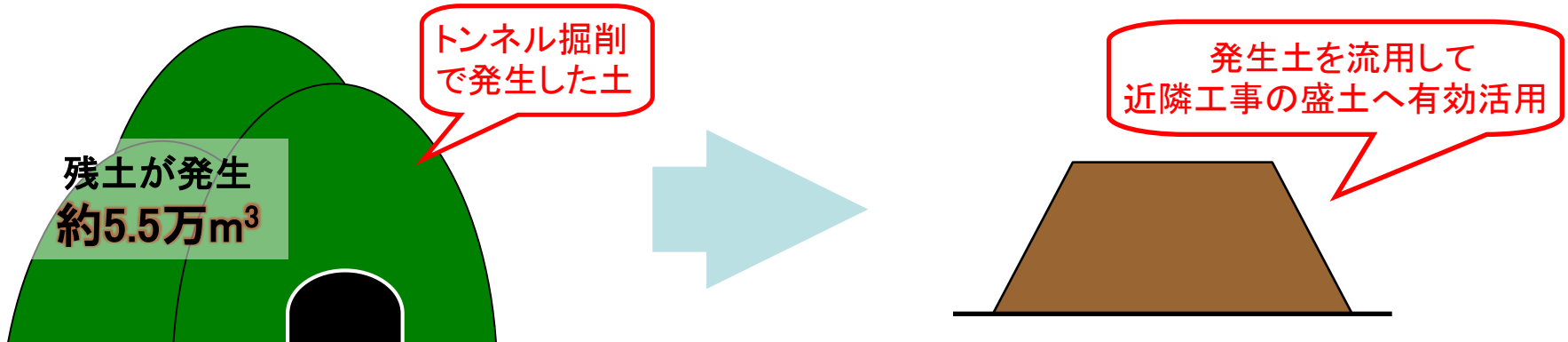
※ 平成28年度末事業費ベース



# コスト削減の取り組み

## トンネルずりの有効利用

- （仮）川上第2トンネル掘削による発生土（約5.5万 $\text{m}^3$ ）を近隣工事の盛土に流用（有効利用）することにより、残土処理費の約1.3億円を削減



$$\begin{array}{|c|} \hline \text{残土} \\ \hline \text{約5.5万}\text{m}^3 \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|c|} \hline \text{処理単価} \\ \hline 2,450\text{円}/\text{m}^3 \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{残土処分費} \\ \hline \text{約1.3億円} \\ \hline \end{array}$$

約1.3億円のコスト削減



# 自然環境への配慮

## 希少猛禽類に配慮した工事を実施

- 当地域には希少猛禽類「クマタカ（環境省絶滅危惧ⅠＢ類、岐阜県絶滅危惧Ⅱ類）」が生息
- 学識経験者のアドバイスを受けながら事業を進めている
- 施工中はモニタリングを実施している。



クマタカ



## 今後の方針

○川上Ⅱ期バイパスの完成は、安全で円滑な交通を確保し、当地域の発展に大きく寄与する。

○地元商工会、観光協会及び下呂市から(仮)川上第2トンネルの早期完成を求める強い要望がある。



＝供用に向け、事業継続＝

# 平成29年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路建設課〕

番 号	4	事 業 名 (路線・河川名等)	道路改築事業 主要地方道 国府見座線 十三墓峠工区
事業実施箇所	たかやましこくふちようようかまち 高山市国府町八日町 ～ たかやましこくふちようようかまち 高山市国府町八日町		事業主体 岐阜県
採択年度	平成20年度	完了予定年度	平成41年度
再評価の実施基準	事業着手年度から5年間が経過した時点で継続中の事業（経過措置）		
事業目的	<p>主要地方道国府見座線は岐阜県高山市国府町広瀬を起点とし、岐阜県高山市上宝町見座へ至る延長28.6kmの主要幹線道路である。当該事業は、現道1,740mの現道拡幅事業であり、災害時に有効に機能する緊急輸送道路ネットワークの確保や、救急搬送経路の確保、通勤通学時における地域の足の確保等を目的としている。</p>		
事業概要	<p>事業延長：1,740m 車道幅員：2.75m×2車線</p>		
概要図	 <p>位置図</p>  <p>写真① 線形不良箇所</p>  <p>写真② 狭隘箇所</p> 		

# 事業再評価 道路改築事業

## 主要地方道 国府見座線 じゅう さん ぼ とうげ (十三墓峠工区)

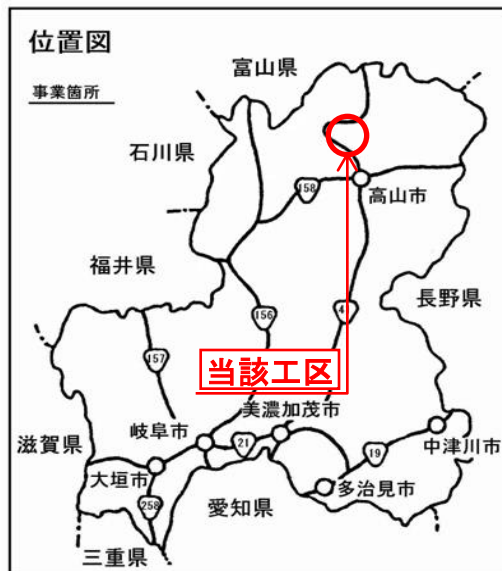
県土整備部道路建設課

平成29年10月

34



# 位置図

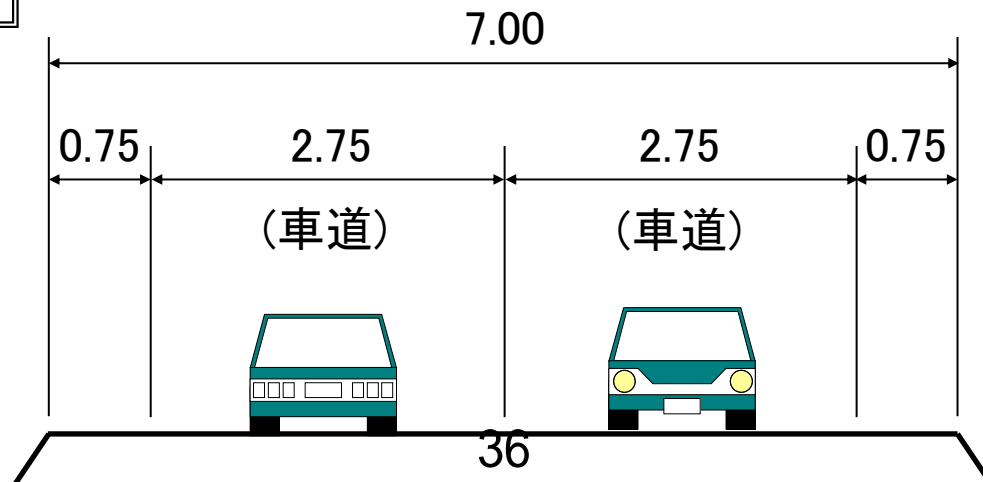




# 事業概要

- ◆ 起 終 点 : たかやましこくふちょうようかまち 高山市国府町八日町 ~ たかやましこくふちょうようかまち 高山市国府町八日町
- ◆ 全体延長 : 1, 7 4 0 m
- ◆ 総事業費 : 約 2 8 億円
- ◆ 事業着手 : 平成 2 0 年度
- ◆ 完成予定 : 平成 4 1 年度
- ◆ 幅 員 : 車道 2. 7 5 m × 2 車線

標準横断図



# 事業の目的①

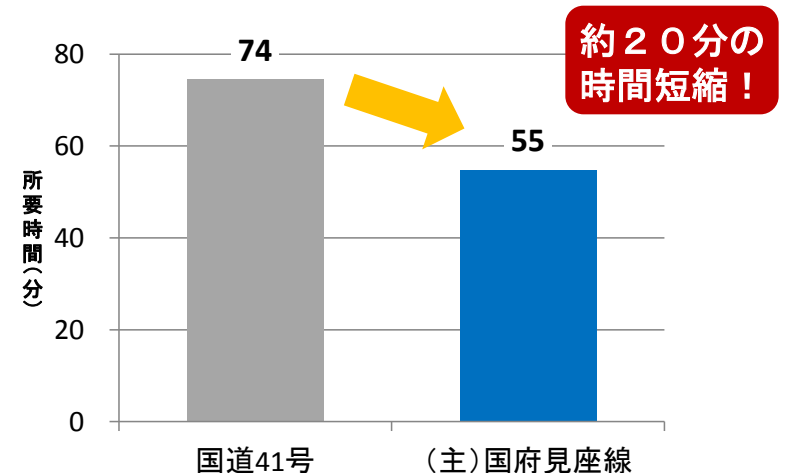
## 災害時に有効な緊急輸送道路網、救急搬送経路の確保

- 主要地方道 国府見座線は第2次緊急輸送道路に指定
- 道路改良により、患者への負担を軽減し、安全で円滑な救急搬送を支援
- 利便性向上・路線の信頼性向上により、災害時の緊急活動を支援

### ○緊急輸送道路指定状況と救急搬送ルート



### ○上宝町～高山市街への所要時間



出典：平成22年道路交通センサス（速度は混雑時平均旅行速度を採用）

上宝町と災害医療拠点である高山市街の救急病院及び、消防、広域防災拠点等を最短で結ぶルートである。

## 事業の目的②

### 通勤通学・通院等における地域の足の確保、連携強化

- 上宝町から高山市街地への通勤通学のため、地域の足の確保は重要
- 地元の強い要望により、上宝町地内⇄高山市街を連絡する路線バスのダイヤが改正され、往来するバスが増便
- 当該工区の整備により、地域間の連携強化が期待



### ○上宝町～高山市街の路線バス 運行本数

年次	運行本数
H 1 8	2 本
H 2 4	4 本
H 2 9	4 本

出典：濃飛乗合自動車株式会社HP



# 費用対効果分析

## 事業の効果

- 走行時間短縮便益 ..... 効果全体の約93%
- 走行経費減少便益 ..... 効果全体の約 6%
- 交通事故減少便益 ..... 効果全体の約 1%

## 投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.1 \text{ (全体)}$$

前回再評価時  
(H24年度)  
1.1(全体)

※費用便益分析マニュアル（国土交通省H20.11）に基づき算出



# 事業を巡る社会経済情勢等の変化

## 地域間をつなぐ広域ネットワークの形成、地域振興の促進

- 近年、高山国府バイパスが完成し、中部縦貫自動車道が事業中
- 上位路線の整備に合わせ、広域交通ネットワークの形成、拡充が必要
- 高山市街地だけでなく周辺地域の観光振興を支援



出典：国土交通省 高山国道事務所  
奥飛騨温泉郷観光協会  
※カッコ書きのIC名は仮称

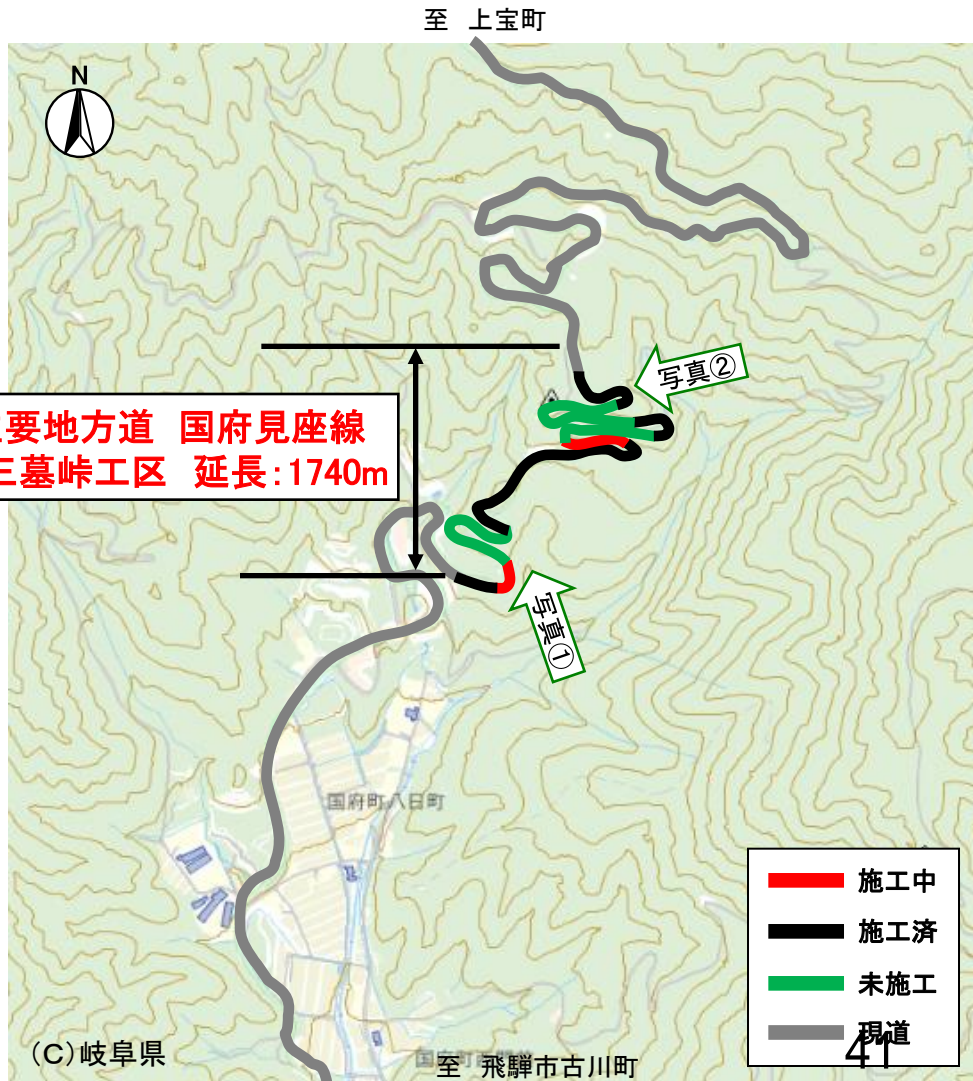
# 進捗状況

全体進捗率52%※

用地補償進捗率80%※

工事進捗率48%※

※ 平成28年度末事業費ベース



写真①



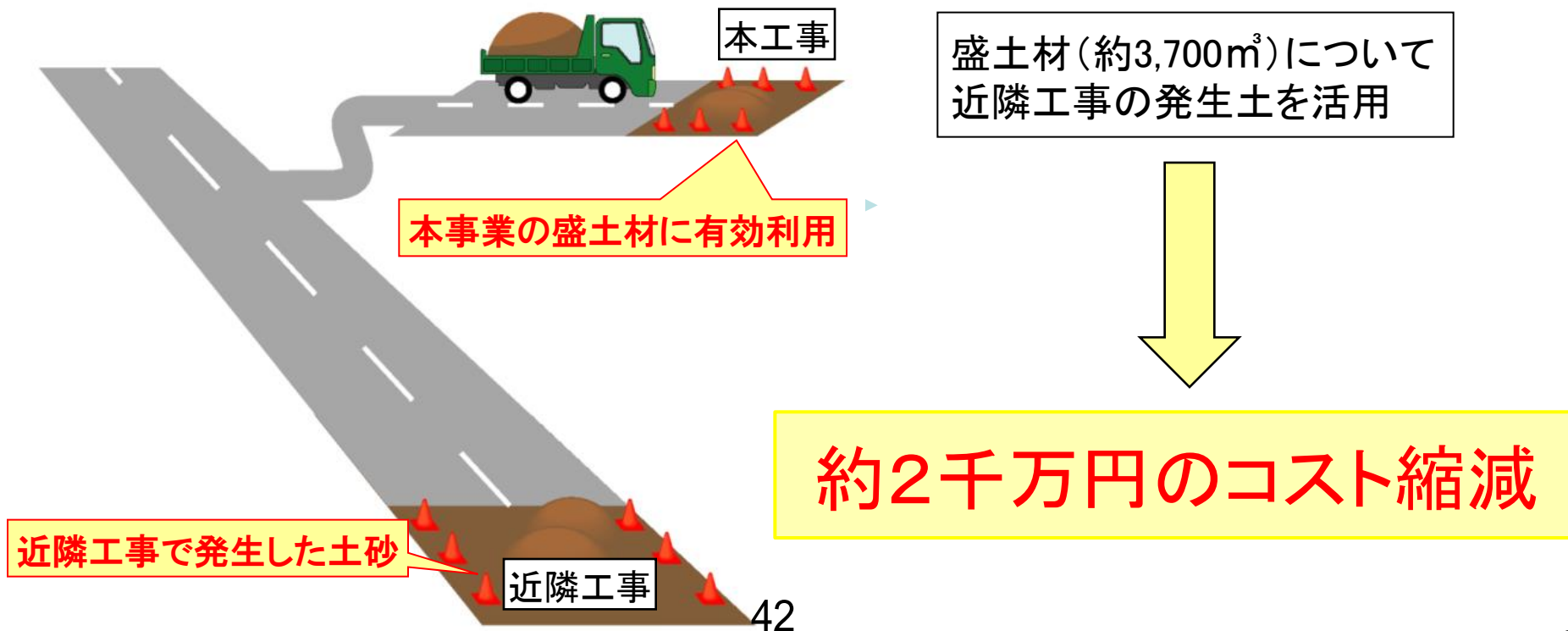
写真②



# コスト削減の取り組み

## 他事業における現場発生土の有効活用

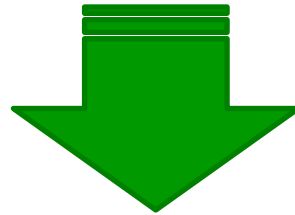
- 近隣工事（国土交通省事業）の発生土（約3,700m<sup>3</sup>）を盛土に流用することにより、盛土材の購入費用約2千万円を削減



# 今後の方針

○（主）国府見座線 十三墓峠工区の供用は、安全で円滑な交通を確保し、当地域の発展に大きく寄与する。

○地元協力会及び高山市から現道の視距改善及び拡幅についての強い要望



＝供用に向け、事業継続＝



# 平成 2 9 年度 再評価実施箇所（附図）

担当課〔道路建設課〕

番 号	5	事 業 名 (路線・河川名等)	道路改築事業 2 級市道 跡津川線
事業実施箇所	飛騨市神岡町土 ～飛騨市神岡町跡津川		事業主体 岐阜県 (飛騨市の県代行)
採択年度	平成 1 6 年度	完了予定年度	平成 3 9 年度
再評価の実施基準	事業着手年度から 5 年間が経過した時点で継続中の事業（経過措置）		
事業目的	<p>2 級市道跡津川線は岐阜県飛騨市神岡町土を起点とし東京大学宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設（スーパーカミオカンデ）の入口を経由し、岐阜県飛騨市神岡町佐古へ至る延長約 5. 9 k m の道路である。当該事業はこのうち岐阜県飛騨市神岡町土から岐阜県飛騨市神岡町跡津川の 8 8 0 m 区間を拡幅（一部バイパス）するものであり、落石や積雪・雪崩時の危険性を回避し、研究施設等への安全なアクセス道路の確保し、学術研究の発展と地域社会の発展に寄与することを目的としている。</p>		
事業概要	<p>事業延長：8 8 0 m      道路幅員：2. 7 5 m × 2 車線 主要構造物：トンネル L=335m</p>		
概 要 図			

# 事業再評価 県代行事業

## 2級市道 跡津川線 あと つ がわ (跡津川工区)

県土整備部道路建設課

平成29年10月

45



# 県代行事業とは

## ◆県代行事業制度

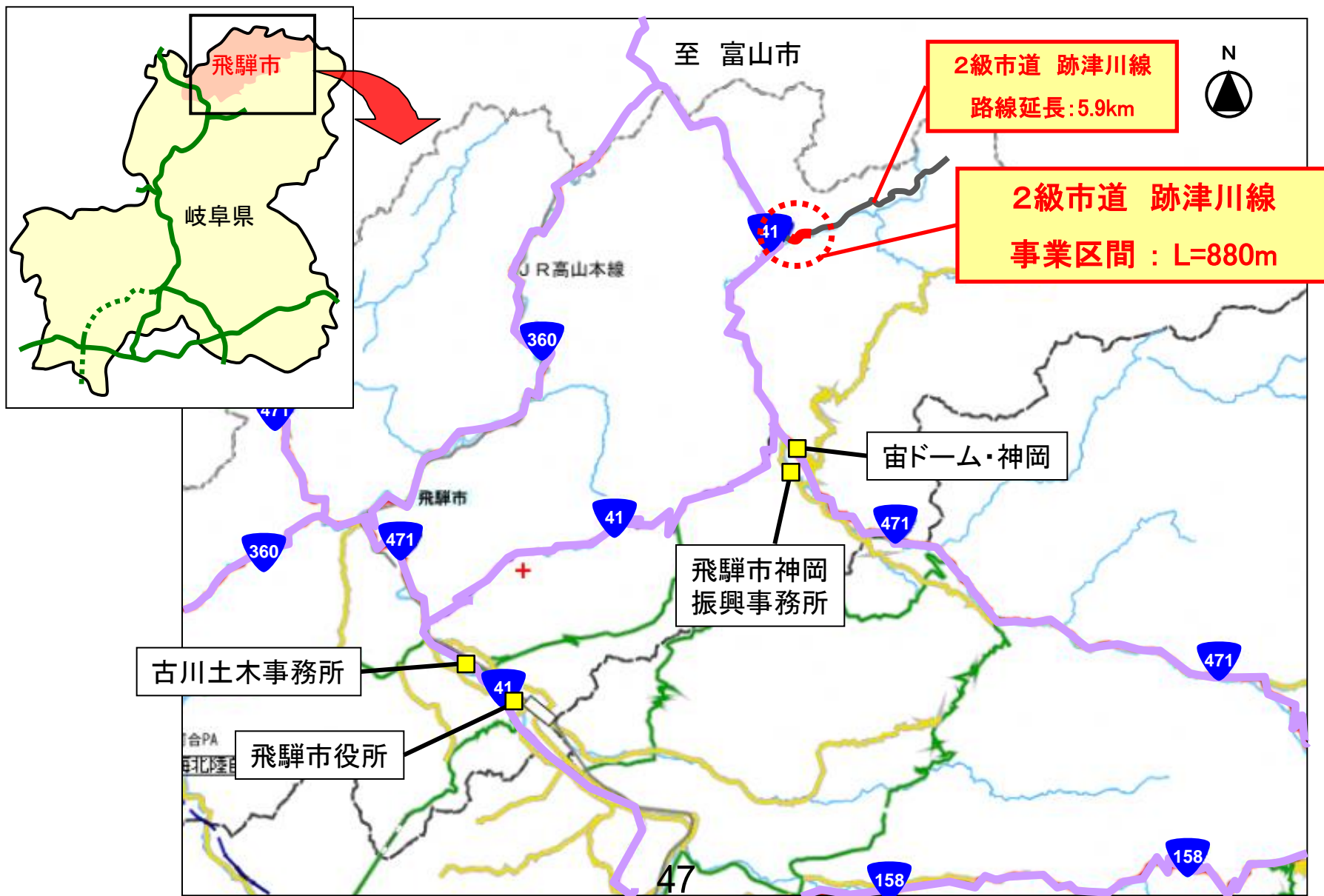
- 過疎地域、特別豪雪地帯、振興山村における基幹的な市町村道で国土交通大臣が指定する道路の新設及び改築事業
- 都道府県が道路管理者である市町村に代わって事業実施
- 補助事業の経費については都道府県が負担

## ◆根拠法令

- 過疎地域自立促進特別措置法 ⇒ 過疎代行事業

過疎代行事業として、岐阜県が飛騨市に代わって事業実施

# 位置図①





# 位置図②

写真①



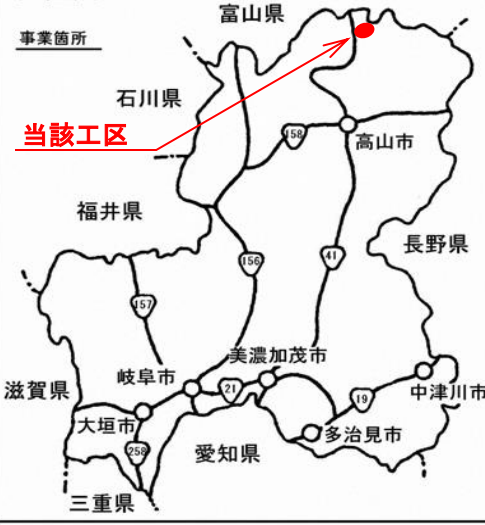
写真②



写真③



位置図

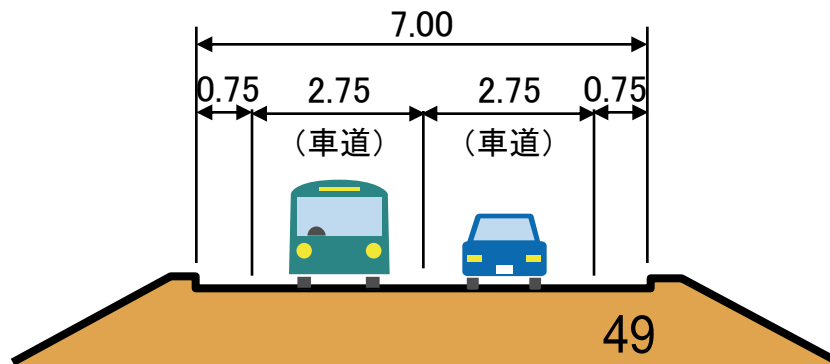


# 事業概要

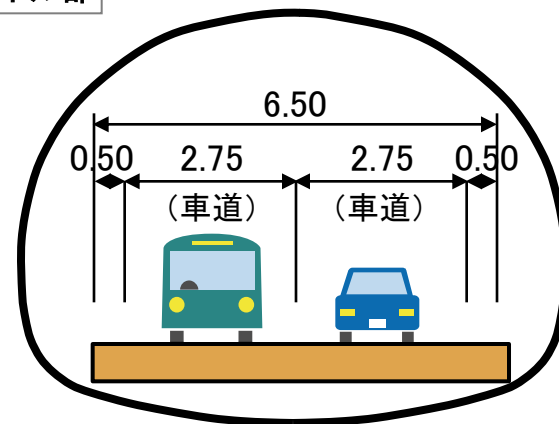
- ◆起 終 点：飛騨市神岡町土<sup>ひ だ し かみおかちょうど</sup>～飛騨市神岡町跡津川<sup>ひ だ し かみおかちょうあとつがわ</sup>
- ◆全体延長：880m（トンネル延長L＝335m）
- ◆総事業費：約18億円
- ◆事業着手：平成16年度
- ◆完成予定：平成39年度
- ◆幅 員：車道 2.75m×2車線

標準横断図

一般部



トンネル部





# 事業の目的①

## 安全な通行の確保

■隘路・線形不良箇所の解消やトンネルの整備により、交通の安全や円滑化、落石や雪崩等の危険を回避する。



# 事業の目的②

## 学術研究の支援

- 研究施設へのアクセス道路は跡津川線のみ。
- 研究施設の見学者数は年間約2,500人。
- 天皇皇后両陛下を始め、大臣などの視察。
- アクセス道路の整備により、施設利用者・見学者の安全を確保。

### ○近年実施されている見学会

- ・GEO SPACE ADVENTURE
- ・ひらめき☆ときめきサイエンス(中高生向)
- ・KAGRA見学会
- ・スーパーカミオカンデ一般公開 など

### ○視察の状況

- 2004年7月 天皇皇后両陛下視察
- 2012年2月 参議院文教科学委員会視察
- 2016年5月 行政改革担当大臣視察
- 2016年12月 文部科学大臣視察 など

出典:東京大学宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設



天皇皇后両陛下視察(2004年7月) 行政改革担当大臣視察(2016年5月)



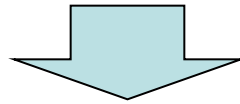
飛騨市と宇宙線研究所の  
連携協力協定の締結  
(2017年1月)





# 費用対効果分析

本事業は、スーパーカミオカンデ等の研究施設に繋がる道路として、飛騨市の強い要望を受け、過疎地域自立促進特別措置法に基づき、岐阜県が飛騨市に代わり実施している事業である。



県代行事業は、経済的、社会的基盤の特に弱い地域において、地域格差の解消等を図ることが目的である。

## 本事業の効果

研究施設利用者等の通行時における安全性の向上

### 【参考値】

本事業の効果を経済価値として算出する方法として、  
仮想的市場評価法（CVM）により算出

→  $B/C = 2.7$

# 事業を巡る社会情勢等の変化

## 新たな研究施設の建設

### 既存の研究施設

#### ■最先端の宇宙物理学研究がなされている「スーパーカミオカンデ」

○ 2002年小柴教授に続き、2015年に梶田教授がノーベル物理学賞受賞

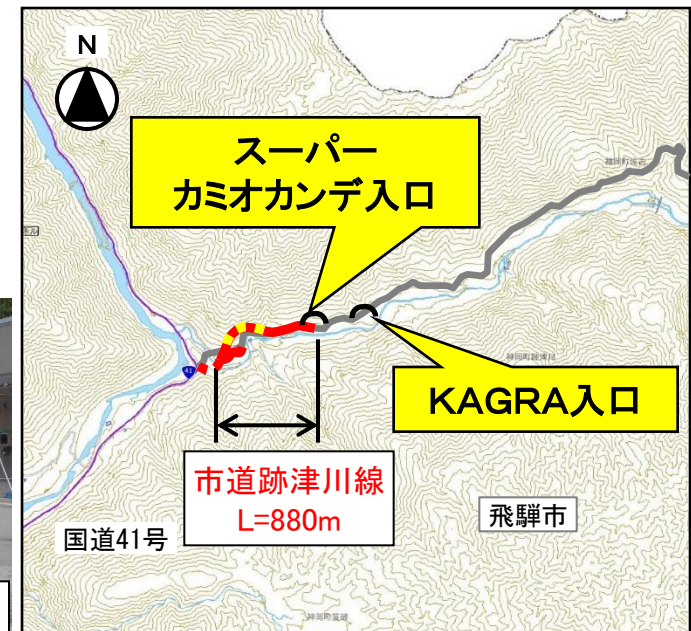
### 新たな研究施設

#### ■重力波の観測に挑戦する「KAGRA」計画

○2011年度より建設開始

○2016年3月，4月に試験運用を実施

○2019年より本格運用予定





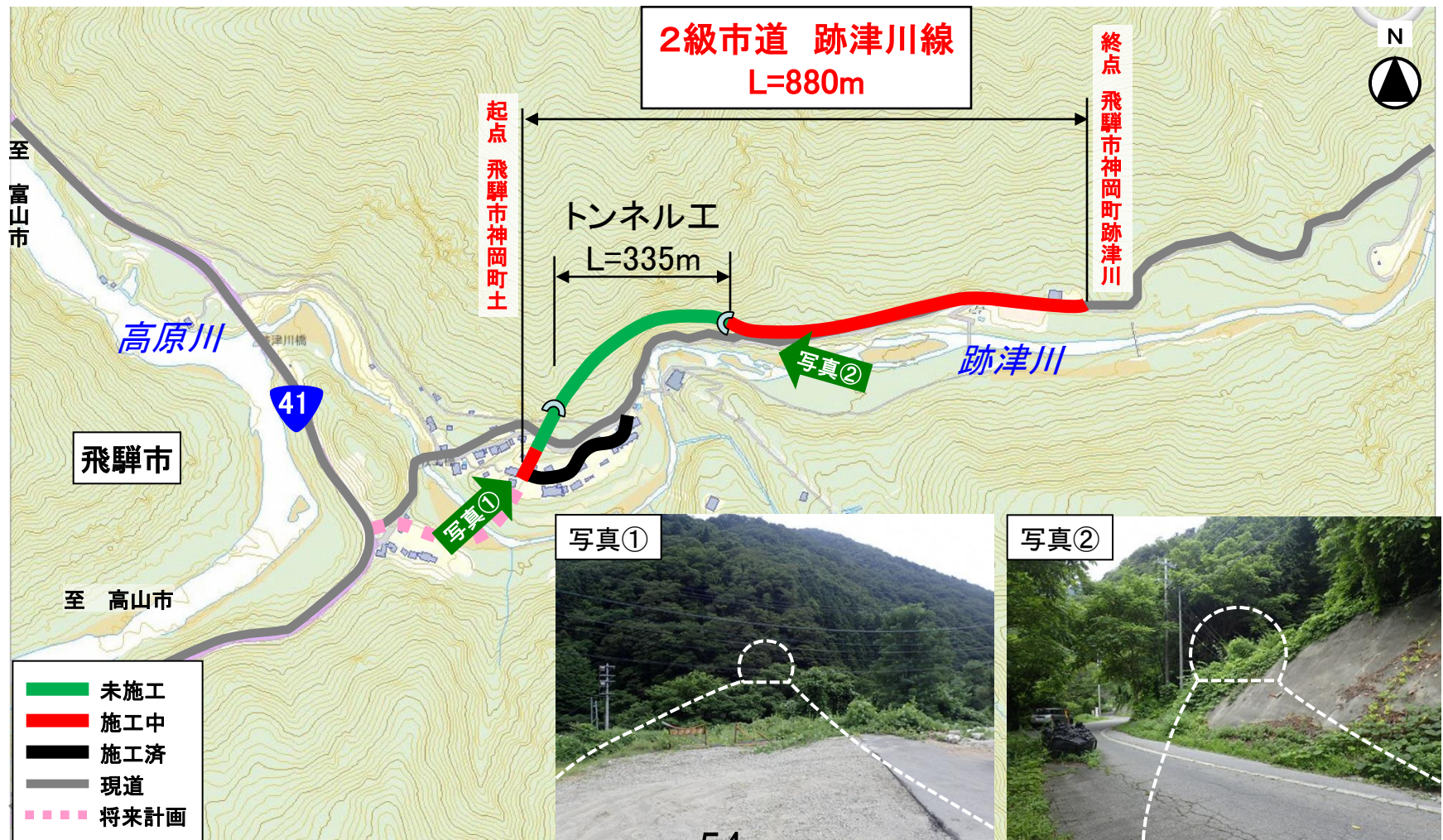
# 事業の進捗状況

全体進捗率 25%※

用地補償進捗率 96%※

工事進捗率 13%※

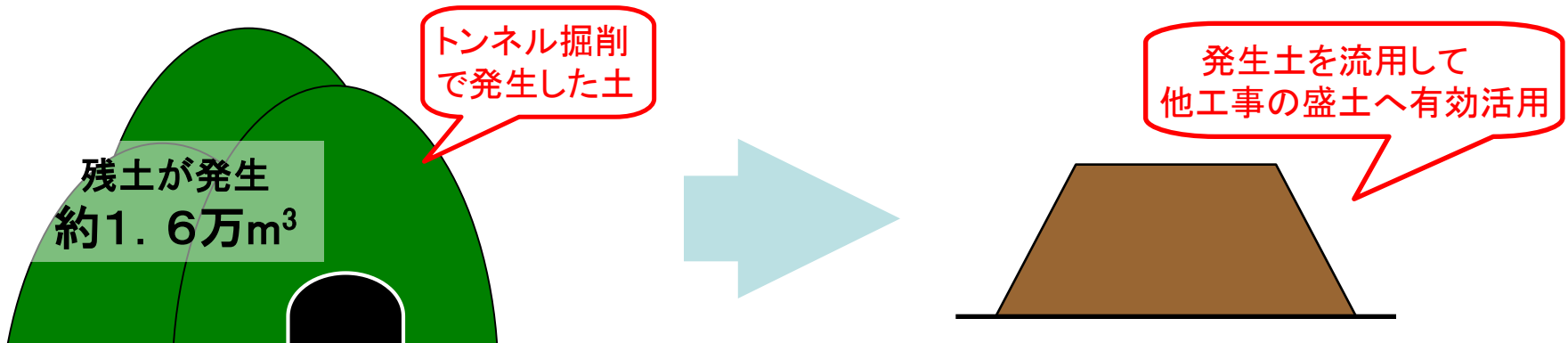
※ 平成28年度末事業費ベース



# コスト削減の取り組み

## ◆トンネルずりの有効利用

- トンネル掘削による発生土（約1.6万 $\text{m}^3$ ）を  
他工事の盛土に流用（有効利用）することにより、  
残土処理費の約3千万円を削減



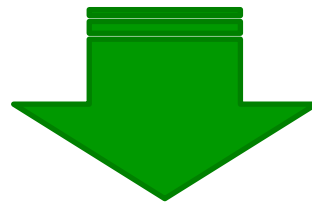
約3千万円の削減



## 対 応 方 針（案）

○跡津川線の完成は、安全で円滑な交通を確保し、研究施設利用者等の安全確保および学術研究の発展に大きく寄与する。

○東京大学および飛騨市から事業の継続、早期完成の強い要望がある。



＝供用に向け、事業継続＝